

【R 1 8】 会話形式ノベル（台本仕様）

『ちん〇の長さ測定は新任女教師がする』

作：七条右京

【主な登場人物】

- ・ ^{ひがしやましお り} 東山 汐梨：新任女教師
- ・ ^{はせがわ} 長谷川：指導の男性教師
- ・ 男子生徒

^{まるのうち} 丸ノ内、^{つしま} 津島、^{いしづ} 石津、^{しまえ} 島江、^{さとう} 佐藤、^{ほしかわ} 星川

年に1度の男子だけが行なう、男性器測定。

長さを測定するのは、新任の女教師が行なう慣習があった。

今年は、新任女教師の東山汐梨が行う事になる。

まずは、その男性器の長さの測定の仕方を、男性教師の長谷川から教わる。

そして、男性器測定の当日がやって来た。

汐梨はちゃんと測定を出来るのだろうか？

○職員室

汐梨のデスクの側に近寄って来る長谷川。

長谷川：

「東山先生、さっきの朝礼で話があった男子の
性器測定だけど」

東山汐梨

「あっ、はい」

「本当に私がするんですよね」

「なんか恥ずかしいですよ」

「私、男のコのおちんちんって、そんなに見た
事が無くて、とっても不安です」

長谷川：

**「大丈夫、オレがちゃんと教えてあげるから、
なんにも心配いらないよ」**

汐梨

「あっ、はい」

「長谷川先生、よろしくお願いします」

長谷川：

「それで、今日の昼休みはどうかな？」

汐梨

「あっ、大丈夫です」

長谷川：

「それじゃあ、お昼ご飯の後に保健室に集合と

言う事で」

汐梨

「分かりました」

○その日のお昼の保健室

既に長谷川が来ている。

**お昼ご飯を食べた後、急いで保健室に向かい、
保健室の戸を開ける汐梨。**

汐梨

「失礼します」

「あっ、長谷川先生、もう来てたんですね」

「待ちました？」

「これでも急いで来たんですけど」

長谷川：

「いや、全然待ってないよ、今来た所」

汐梨

「あっ、良かった」

長谷川：

**「それじゃあ、来て直ぐで悪いけど、始めよう
か」**

汐梨

「はい」

長谷川：

「それじゃあ、段取りを説明するから、ちゃんと覚える様に」

汐梨

「あっ、はい」

長谷川：

「1、男子生徒が来たら、パンツを降ろして、ちんぽを露出させる事」

「2、ちんぽを完全に勃たせる事」

「3、完全に勃った状態のちんぽを、物差しで測る事」

「やる事はこの3つだけ」

「どう、簡単だろう？」

汐梨

「あっ、はい」

長谷川：

「それじゃあ、オレが練習台になってあげるから、練習してみよう」

「いま服を脱ぐから、ちょっと待ってるよ」

ドキドキ心臓バクバクの汐梨。

服を脱いで、パンツ1枚の姿になる長谷川。

汐梨

「やだ、裸」

ちょっと恥ずかしがり、思わず口に出てしまった。